落合の帳塚様（ちょうづかさん）

大渕落合町の小高い丘に「帳塚様（ちょうづかさん）」と呼ばれている碑が建っています。

これは、今から200年程前この地方に飢饉（ききん）があったとき、自分の身の危険も顧みず、年貢を軽くしてくれと、代官所に願い出て、死罪となった落合の名主新右衛門を供養したものです。

新右衛門の末えいにあたる
勝亦まつ江さん（63歳）

直訴（じきそ）で打首に

江戸時代の農民は年貢が厳しく、飢饉（ききん）あると生きることも困難でした。

落合の名主新右衛門は、日頃から村の作高と年貢の関係を詳しく帳面につけ、年貢が支障なく納められるよう調べていました。

この地方を襲った飢饉の時、新右衛門はこの調査に基づいて年貢を軽くしてもらいたいとの訴状を書いて代官所へ願い出ました。

しかし、直訴の罪でよく調べもせず打首となりましたが、あとで持参の書類を見た役人は、これは殺す男ではなかったと悔やんだといいます。

新右衛門の犠牲によってその後村の年貢は軽くなり、それから数十年たって、落合、中野、片倉、三ッ倉の四ケ村が施主となり新右衛門の家の近くに訴状の下書、血判状の控、その他書き綴った帳面を埋めて碑を建て、帳塚と呼び供養しました。

新右衛門の末えいにあたる勝亦まつ江さんは、数年前まではよく帳塚さんの掃除に行っていましたと語ってくれました。

新右衛門の供養塔「帳塚様」

地名の由来

大渕

明治22年3月1日大渕村と中野村が合併して大渕村が誕生しました。

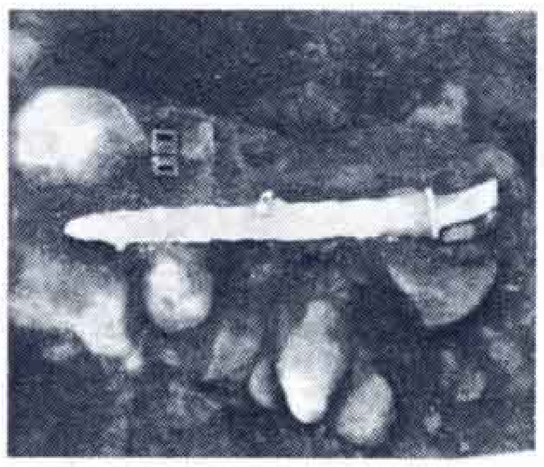
大渕という地名は、伝説では頼朝が富士川の巻狩のとき、この付近で乗馬のムチを探させた事からムチがブチに転訛したのだとしています。

大渕村は武田の遺臣小山氏が、中野村は秋山氏の開拓した村だと言われていますが、曽比奈地区や三ッ倉地区はもっと古く開拓されたようです。

郷土の遺跡

西平第1号墳出土

蕨手刀（わらびてとう）



伝法の西平第1号墳からは、蕨手刀（わらびてとう）と呼ばれる刀が出土しました。この刀は、古墳時代の終り頃から奈良時代にかけて盛んに造られた刀で、柄頭（つかがしら）（柄の端）が渦状となり、蕨の若芽に似ていることから付けられた名前です。この蕨手刀は主に東北地方から北海道にかけて多く出土するため、当時、朝廷によって行われた蝦夷征討に使われた刀といわれています。

この時代は、いままでの豪族による支配から、朝廷の直接支配に変わる律令社会への過渡期で、富士郡のように大きな混乱もなく律令社会へ変わったものと、九州や東北、北海道のように内乱を起すものがありました。

特に東北、北海道では内乱が激しく、朝廷ではこの征討を東海や北陸地方の豪族に命じ、これに必要な蕨手刀などの武器を与えました。西平第1号墳の被葬者もこの蕨手刀を持ち、軍を率いて遠く東北や北海道に出兵したことでしょう。

発　行・富士市役所　富士市永田61－1　☎51－0123
編　集・行政管理部広報広聴課

人　口　212,531人　男　105,894人　女　106,637人
世帯数　59,901世帯　（8月1日現在）